

**製品名: リン酸化 GSK3 (Tyr216/Tyr279) ウサギモノクローナル抗体****カタログ番号: AMRe03775**

研究使用のみ

**概要**

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IP
反応性	マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル抗体
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:1000,IP 1:20-1:50
分子量	Calculated MW: 51 kDa; Observed MW: 47-51 kDa

**抗原情報**

遺伝子名	GSK3A/GSK3B
別名	Serine/threonine-protein kinase GSK3A; Serine/threonine-protein kinase GSK3B
遺伝子 ID	2931/2932
SwissProt ID	P49840/P49841
免疫原	ヒト GSK3α の Tyr216 を囲む残基に対応する合成リン酸化ペプチド

**背景**

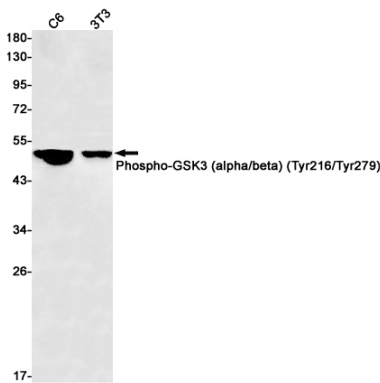
恒常的に活性なタンパク質キナーゼで、グリコーゲン合成酵素 (GYS1 または GYS2)、CTNNB1/beta-カテニン、APC、および AXIN1

をリン酸化して不活性化することで、グルコース恒常性のホルモン制御、Wnt シグナル伝達、転写因子と微小管の調節において負の調節因子として機能します。ほとんどの基質のプライミングリン酸化が必要です。GYS1 活性をリン酸化して阻害し、それによってグリコーゲン合成を阻害することで、インスリンによるグリコーゲン合成の調節に寄与します。肝臓のグリコーゲン代謝を調節しますが、筋肉のグリコーゲン代謝は調節しません。また、転写因子の活性化を調節することで、インスリン抵抗性の発生を媒介する可能性もあります。Wnt シグナル伝達では、核内の CTNNB1/beta-カテニンのレベルと転写活性を調節します。アミロイド前駆体タンパク質 (APP) の処理と、アルツハイマー病で見られる APP 由来のアミロイド斑の生成を促進します。膵臓  $\beta$  細胞における複製の調節に関与している可能性がある。ニューロンの極性形成と軸索伸展に必須である。抗アポトーシスタンパク質 MCL1 のリン酸化を介して、成長因子の枯渇に対する細胞アポトーシスを制御する可能性がある。

## 研究分野

神経科学

## 画像データ



リン酸化 GSK3 (Tyr216/Tyr279) 抗体を使用した C6、3T3 溶解物中のリン酸化 GSK3 (アルファ/ベータ) (Tyr216/Tyr279) のウエスタン プロット分析。